

(熊本県立高森高等) 学校 令和3年度(2021年度) 学校評価計画表

1 学校教育目標
<p>地域密着型の特徴を活かしながら、グローバルな視点を持って将来の地域を担う人材を育てる。そのため、全教職員一体となって「くまもとの教職員像」を実践し、生徒一人一人が自らの強みを活かして輝きを放つ魅力ある学校づくりに努める。</p> <p>①生徒の「自律」を最上位の目標とし、国際人として考え行動できる力を育成する授業を実践する。</p> <p>②中学生が本校を進学先に選びたいくなる新たな魅力を具体的に検討し、その実現に向けた動きを始める。</p> <p>③全職員で深い「傾聴」と「承認」を実践し、小規模校だからできるきめ細かな教育活動を実践する。</p> <p>④地域との連携を強化し、本校教育活動の魅力を生徒が主体的に発信する機会を意識して確保する。</p>

2 本年度の重点目標
<p>魅力的な教育活動の創造と効率的な組織運営の実現により、生徒の「自律」：自ら考え、自ら選択し、自ら判断し、自ら行動できる人を育成する。</p> <p>【学校経営目標】 (1) 幼保小中高連携による「英語教育」や「ICT活用教育」を実践する。</p> <p>(2) スーパー・グローバルハイスクールの指定校とICT先進校として、地域密着型とICT最大限活用で学びを充実させ、地域活性化に連動した新たな学びによる特色化を図る。</p> <p>(3) 各職員が教育充実のための創造的なアイデアを生み出す。</p> <p>【授業目標】 (1) 主体的に学ぶ態度の育成 (2) 課題発見・解決能力の育成 (3) 表現し発信する力の育成</p> <p>【特別活動目標】 (1) 協働性の育成 (2) 多様性の尊重</p>

3 自己評価総括表				
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策
大項目	小項目			
学校経営	働き方改革を意識した業務改善	ICTを活用した正確性と効率化を意識した持続可能な業務改善を図る。	各分掌部から最低1つ、ICTを活用した業務改善を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○9月までに各部から2つ以上、ICTを活用した業務改善を提案し、職員間で共通理解を図る。 ○各部からの提案を10月～1月で検証し、次年度に繋げる。
	入学生41名確保のための本校の魅力の創造と発信	<p>地域活性化策に連動した新しい学びに見合う教育課程を策定する。</p> <p>教務部が主査となり、学校総体で魅力を発信する。</p>	<p>学科改編の為の教育課程を9月までに作り上げる。</p> <p>生徒が主力となるICTを活用した情報発信方法を最低1つ実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○学科改編委員会が6月中旬までに、新教育課程の骨子を作り上げる。 ○県教育委員会や関係機関等から助言を受け、学科新設のための教育課程とスケジュールを作り上げる。 ○各中学校の進路情報提供状況を見学し、担当班で情報発信の計画を6月中旬までに立案し、学校運営協議会に提案する。 ○自治体が発行する広報誌や自治体の情報発信ツールを活用し、本校の教育活動をアピールする。
学力向上	カリキュラムマネジメントによる授業改善	個別最適化した教育を推進する。	観点別評価を1月までに確立する。	<ul style="list-style-type: none"> ○評価に関する講師招へい研修会や職員研修等を実施し、観点別評価表を構築する。 ○各教科でスーパーティーチャ等を招聘し、授業改善に取り組む。
		自立型の学びへの転換を図る。	各教科のICTを活用した探究型授業の実践例を12月までにまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ○町内義務制のICT活用授業を観点別評価の視点で、全職員1回以上参観する。 ○7月下旬までに、授業マネジメントに沿った授業実践報告をまとめ、2学期の公開授業に繋ぐ。

キャリア教育 (進路指導)	社会における自己の生き方を考えるキャリア教育の推進	地域と連携しキャリア教育に取り組む。	グローバル・プロデュースの課題研究テーマそれぞれが外部人材や施設など、1団体との協力関係を築き、地域との連携を図る。また、地域人材の開拓を行いキャリア教育講演会の実施を3回行う。	<ul style="list-style-type: none"> ○学校運営協議会にグローバル・プロデュースの課題と連携先一覧を提出し、助言を受ける。 ○グローバル報告会はYouTube限定配信等を併用し、学校運営協議会委員や探究活動に関する外部指導・支援者に観ていただき、評価を受ける。
		個に応じた体系的な進路指導を確立する。	キャリア・パスポート記入時間をLHRの年間計画に設定し充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○キャリア・パスポート入力・まとめの時間を設定し、振り返りと次学期の目標に繋げる。 ○1人1台タブレットを活用し、各自のキャリア・パスポートを電子データ化する。
生徒指導	集団を意識して行動できる力の育成	保護者（家庭）と連携した基本的な生活習慣を確立し、情報モラル教育を推進する。	生徒会が中心となり自他の人権尊重と自己の健康管理の視点から本校の情報モラルのルールを、8月までに見直す。	<ul style="list-style-type: none"> ○親と子の学びの中で、情報モラルルールを確認し、各家庭で実践する。 ○ICT推進校として、情報モラル遵守先進校となるべく、講師招へい講義を2学期に実施する。
		生徒の自治活動機会を確保する。	生徒会・生徒各種委員会が「自律」を意識した活動を最低1つ計画する。	<ul style="list-style-type: none"> ○体育祭、文化祭を始め、学校行事等で生徒会・生徒各種委員会で地域連携の活動を計画し、実施する。 ○「生徒の心得」の見直し及び再確認を、生徒会・後援会役員会合同で実施し、服装・頭髪検査撤廃に繋げる。
人権教育の推進	命を大切に育む指導	多様性を受け止め、自他を尊重する資質と人権感覚を育成する。	差別を見抜き、NOと言える生徒・職員が100%をめざす。	<ul style="list-style-type: none"> ○紙面とICTを活用し、適宜、生徒・職員・保護者に人権に関する啓発を行う。 ○人権教育LHR・全校集会・綴り方などを通して、意見を伝え合い、お互いを知ることによって安心・安全な居場所づくりを推進する。
			「学びのUDの視点で互いの授業を参観し合う」授業参観を2学期に実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ○専門機関の助言を受け、保護者・職員と連携し個別教育支援計画、個別の支援計画を1学期に作成し、共通理解を図る。 ○学びのUD化をテーマとする職員研修や授業参観週間を設定する。
いじめの防止等	いじめを見落とさず、いじめを許さない環境づくりの推進	いじめを許さない姿勢を育成し、いじめの早期発見に組織的に取り組む。	「いじめ早期発見のためのチェックリスト」と「いじめを許さない行動指針（生徒会）」をいじめ防止サインの日（毎月末）に確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめ防止サインの日を中心に、本校のいじめ防止の取組みに関して保護者と共通理解を図る ○SCによるカウンセリングやストレスマネジメント研修、SOSの出し方研修、スクールサイン等、専門機関を活用し、いじめの早期発見早期対応を図る。
地域連携(コミュニティスクールなど)	地域との連携を強化し、地域の期待に応える学校づくり	スーパー・グローバルハイスクール(SGLH)事業の充実を図る。	SGLH事業の自己評価を5月と2月に実施し、総合型学校運営協議会を基盤としたコンソーシアムに指導・助言をいただき、事業の深化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○グローバル・プロデュースの活動状況、学校行事・通常の生徒の学習の様子等をHPに掲載する。 ○グローバル・プロデュースの自己評価を学校運営協議会(2回目)に提示し、指導・助言をいただき、次年度に活かす。

健康 管理・ 安全 管理	健康教育 ・保健教 育の推進	心身の健康管理 能力の育成	担任・保護者と連 携して、歯科受診 率90%以上を目 指す。	○保健委員会が、歯に関する疾患が健 康に及ぼす影響に関して生徒及び保 護者に対して啓発活動を行う。 ○9月に未受診の生徒に個別面談を実 施し、受診に繋げる。
	環境教育 と防災教 育の推進	環境の維持保全 に寄与する態度 の育成	学校ISOの年間 消費電力削減に関 して、昨年度から の上昇枠を最低限 にとどめる。	○コロナ禍対策やICT活用授業を充 実するために電力消費は上昇する。 美化委員会主導で、生徒が利用して いない教室のこまめな消灯を行い節 電に取り組む。 ○美化委員が、学校ISO重点目標に関 して生徒・職員への啓発活動に取り組 む。
		防災意識の向上 と自助・共助の 意識の育成	自助・共助を含め た、コロナ禍にお ける防災教育を2 ・3学期に行う。	○オンラインを通して全国の学校と繋が り、本校の取組を紹介すると共に他校 の取組を知り、刺激を受けることで更 に防災意識を高める。 ○阿蘇広域行政事務組合消防本部や高森 町役場と協力して、ハザードマップの 有効な使い方や高層ビル火災の避難を 学ぶ。